

かほく市地域包括支援センター運営協議会 平成 28 年度第 1 回会議報告

招集年月日	平成 28 年 10 月 28 日 (金)
招 集 場 所	かほく市役所 304 会議室
開 会 日 時	平成 28 年 10 月 28 日 (金) 午後 1 時 30 分
閉 会 日 時	同 午後 3 時 00 分
委員の定数	9 名
出 席 委 員	北 勝利、大野洋治郎、寺西衣姫、木村喜一郎、金谷征毅、 東敦子、遠田由美子、西盛さよ子、細井豊太郎
欠 席 委 員	塚田久恵
事 務 局	長寿介護課長：寺嶋立弥、長寿介護課長補佐：竹田昌代 高齢者支援係：七野係長、高野主査、網江主任保健師、松本主事 介護予防係：花係長、橋岡主査
議 事 の 経 過	
事務局よ り順次説 明	議件 1).平成 28 年度地域支援事業の重点事業について説明 (1)介護予防事業の推進 (2)地域ケア会議の充実 (3)在宅医療・介護連携の推進 (4)認知症施策の推進 (5)生活支援サービスの充実 (質疑)
委員	高齢者に運転免許自主返納者が増えていると聞く。独居も増えている中で車を手放すと困るのは買物。自身も独居高齢者のためある程度の年齢になれば返納したいと考えているので、他人事ではない。申込書に記載すれば商品が届く仕組みもあるが、商品を自分の目で見て買いたいもの。移動販売では品数が少ない。以前神戸の老人クラブ全国大会に参加した際、買物に行きたい高齢者が居住地の老人クラブ代表者に連絡すれば先着順で週 2 回程度買物に連れて行ってもらえ、車の準備や事故対応は市がバックアップする仕組みがあった。自己負担は 1 回 100 円程度で、運転手は 1 回 500 円程度の賃金がもらえるもの。県内ではそのような仕組みはないと思われるが、大変良い仕組みなので是非検討願いたい。
事務局 委員	乗り合いタクシーは小松・加賀で NPO 法人が運営していると聞いている。 口腔ケアについては住民の意識も高まっているので、介護事業者にも知っていただき普及啓発していく必要があると感じている。
委員	ジムに通っているが会員は女性ばかりで男性が少ない。男性は退職後パチンコ屋で暇をつぶすなどして過ごしていると聞く。何とか男性を運動など外に連れ出すようにできないものか。
事務局	地区によっては農作業の作業小屋や海の家などに集まり、お酒を飲みながら集まって

	いると聞く。
会長	かほく市はグランドゴルフが盛んであるが、参加者の男女比はどうか。
委員	虚弱な人も参加しており、老人クラブで大会をすると 200 人は参加。男女比は 1 : 1。
委員	夫も昨年度で仕事を辞めて外に出ない。夫がいると 3 食の準備など自分の時間が拘束されるようになった。夫は「自分の好きなことをしたい」とは言うが、集団の場に出ようとはしない。反対に女性は楽しみ方をよく知っていて、健康にも気を遣っている。
会長	男性も積極的に外に出ることができるよう、検討願いたい。
委員	日頃介護認定者との関わりが多いが、やはり男性はなかなかサービスにつながらない。しかし、最近では通所サービスでも畑仕事や花の手入れなどの水遣りや土いじりの役割を担ってもらうことで利用者も増えている。男性は生産性の高いことを好む。
委員	志賀町では認知症や独居高齢者宅に緊急時連絡先を書いた筒を配布しており、社協や包括との連携も行っている。
事務局	かほく市にも同様の仕組みがあり、消防の方で毎年秋頃に訪問にて確認している。現在のところ独居高齢者宅を中心に配布しているが、先日の会議では日中同居の方が意識不明で倒れていても緊急時連絡が必要になることから、高齢者全数に配布すべきではないかとの意見も出されていた。
	かほく市でも独居高齢者が救急搬送された場合、消防から電話または FAX 連絡を支援センター宛にもらい、社協とも連携しながら対応している。
委員	自分も独居高齢者であり、そのような筒に緊急時連絡先を記載して冷蔵庫に準備している。消防の職員には鍵を閉めた状態で倒れている可能性があるれば、自宅が一番小さい窓を割って入ってほしいと伝えてある。
委員	緊急時連絡先を書いた筒が準備されているか否かはどのように分かるのか。家の外から分かるようでは悪徳業者に狙われやすいのではないか。
委員	外からは分からないよう自宅内にステッカーを貼って表示している。
委員	認知症の独居や認認介護などのケースで栄養指導が必要な場合、栄養士が訪問指導するような仕組みはあるか。
事務局	必要時高齢者支援センター職員と健康福祉課管理栄養士が同行訪問するケースはある。
	栄養指導の際は、主治医やケアマネジャー、訪問看護師等介護保険事業者とも連携をとりながら実施している。
委員	社協としても老人クラブや民生委員・児童委員の力を借りてコーディネートしていきたい。
会長	議件 2).新しい介護予防・日常生活支援総合事業への移行について説明 (質疑)
委員	高齢者支援センターの構成メンバーについて教えて欲しい。
事務局	課長とセンター長として保健師 4 人、主任ケアマネジャー 1 人、社会福祉士 1 人、社

委員	<p>会福祉主事1人、作業療法士1人で構成されている。</p> <p>ミニデイサービスBの委託先としてはどのようなサービス提供者を想定しているか。NPO法人クラブパレットや社協、病院などを想定している。</p>
事務局 会長	<p>デマンドタクシーは介護予防・生活支援サービス事業のうちどこに分類されるのか。</p> <p>また、利用者負担として1割または2割負担とあるが残りの8または9割部分の財源構成はどのようなものか。</p>
事務局	<p>市の介護予防・生活支援サービス事業ではなく、民間サービスの活用を図りたい。財源は従来の介護予防事業等と同じ地域支援事業として実施するため、単価が上がれば介護保険料の増額につながる。従来型のサービス料を上限にそれ以下の単価設定を行うこととされている。</p>
委員	<p>先程から男性の参加者増加について協議されていたが、「老人クラブ」や「デイサービス」などのネーミングが悪いと感じる。実際の事業名とは異なる対外的に明記する他のネーミングを考えると良いのではないか。</p>
委員	<p>自分たちには「老人」という認識はないが、県外に研修に行ってもバスや旅館の看板が「老人クラブ」となっている。敬老会の対象年齢にもなったが、自分たちの同級生はほとんど参加していない。ネーミングを変えることも必要ではないか。</p> <p>ゴールドンクラブなどはいかがか。</p>
委員 会長 委員	<p>市の方でも協議していただきたい。</p> <p>男性は理論的なので、退職して国民健康保険に切り替わるタイミングで健康講座や担い手づくりの講座を受講できるような仕組みがあると良いと感じる。他課との連携も行いながら考えると良いのではないか。</p>
事務局	<p>かほく市では今年度いきいきシニア活動支援事業として元気な高齢者の生きがい・健康づくりに向けた取組を開始したところ。詳しくは課長より説明。</p> <p>今年度いきいきシニアコーディネーターを1名採用し、石川県立看護大学やPFUと連携しながら事業を進めている。受け手である高齢者の意見聴取は重要であり、特に退職して間もない方から実施したいと考えている。高齢者の生きがい・健康づくりにつながる趣味活動を広げ、生活支援の担い手としての活用、できれば起業につながるような取組を行うもの。かほく市としての体制整備を行っていききたいので、各団体の協力をお願いしたい。</p>
事務局	<p>その他</p> <p>11月19日に開催を予定している「認知症にやさしいまちづくりシンポジウム」の紹介</p> <p>次回開催を平成29年3月頃を予定していることを報告し、閉会</p>